

## 澤速記は下北沢で47年

街も会社もリニューアル！

澤 吉昭

編集部から、ビルを建てた話を書いてくれと言われました。コロナ禍で皆さん仕事が少なくなって困っていたり、速記事務所を閉める知らせがあつちこちから届く昨今ですので、気は進まないのですが、我が社のやってきたことが少しでも速記業界の参考になればと思い、拙い文を認めてみます。

### 澤二郎の沢ビル

私の父親である澤二郎が下北沢にビルを建てたのは、今から47年前の昭和49年1月でした。それまでは、株式会社澤速記事務所を設立してから8年間、渋谷区上原2丁目の自宅兼事務所で、7、8名の速記者と社長夫妻で仕事をしていました。

小渕一雄さんが「東京速記士会20年史」に「高槻氏の東京速記センター、吉岡氏の共立速記印刷に引き続く速記業界第3番目の沢ビルが新築落成し、その壮麗雄大な姿を大東京の一角に現したのだった。」と書いています。事実は、20坪の土地に建てた鉄骨3階建の小さなビルですが、当時の速記業界の勢いが感じられ、父の意気揚々とした姿も思い出されます。

### 会社の発展と事務所の一時移転

会社は、下北沢に拠点を移してから、速記学校、速記者養成所などから毎年若い速記者の卵を迎え入れ、技術者の養成と事業の拡張を進め、その後四半世紀の間に、社員数も仕事量も順調に増え続けました。

その間に沢ビルも手狭になり、平成10年に駅前のビルに一時移転をしました。

### 社員定着とお客様の信頼

それから現在に至る二十数年は、事業規模はあまり変わりませんでした。品質ISOやPマークの取得・定着などにより、ベテラン速記者が築いた高品質な発言記録作成の技術を若い方たちが継承して、お客様に喜んでいただける、信頼される会社に成長することができました。

### 難問がうまく解決

事務所が一時移転した後、沢ビルはテナント貸ししていましたが、建築から40年近くたって、屋上や壁面の劣化がひどくなり、修理をしても直らず、

雨天の日は店子から苦情の電話が来るのではないかと、不安な夜を過ごすようになりました。また、この間に「用途地域による建築物の制限」（建築基準法第48条）の変更があり、代沢5丁目における事務所等の建築が不可となっていました。

難問が立ちはだかって、途方に暮れていたところ、助けていただいたのが、今回建築を依頼した旭化成の営業の方で、世田谷区建築審査会に精力的に掛け合っ、同会の同意をいただき、建築の着工にこぎ着けました。私からもお願いの文書を出しましたが、同会の議事録作成は長年当社が請け負っていたので、誠実に発言記録を作ってきた速記者の努力の賜物でもあります。

### 新築ビルへの移転

ビルの新築は、ことし2月23日に地鎮祭を行い、土地の神様と亡父に新築工事の許しをいただき、2月末から工事を始めて、8月に無事完成しました。

23年ぶりの会社の移転は、社員全員の協力で整然と行われ、8月23日から営業を再開しました。

長年会社として使った建物がなくなる寂しさもありましたが、懸案が解決して、やっと一安心することができました。

### これからの会社とシモキタの変貌

困難と思われたビルの新築ですが、社員、家族、建築関係者、世田谷区、地元の方々、皆さんの理解と協力、それからもう一つ、幸運が手伝ってできたのだと思います。ただただ、感謝、感謝です。

旭化成との建築契約には30年保証、60年保証がついています。澤速記事務所が、この建物とともに、30年、60年続きますように。これが私の願いです。

私のビル新築プランと並走するように、下北沢と周辺の街は瞬く間に変貌してしまいました。

小田急線が地下に潜った世田谷代田～下北沢～東北沢間に新しい街並がつくられ、狭くてごみごみしていた下北沢駅の北口と南口の間でつかい広場が出現したのです。

天狗道中、北澤八幡のお祭り、演劇・音楽・カレーの各フェスティバルと、この街は今もイベントが目白押しです。

戦後の闇市名残の駅前マーケットはなくなりましたが、その跡にどんな新たなにぎわいが生まれるのか、とても楽しみです。

来たれシモキタに、夕暮れ時に。おいしい地ビールが待ってるよ！